

団体名 <b>糸満市立潮平小学校</b>	<b>連絡先：098-992-2545</b> <b>Eメール：shiosyo@shiohiras.city.itoman.okinawa.jp</b>
-------------------------	---

## 1 実践項目（2）

タイトル「潮平小学校の取り組み」

## 2 実践内容

## 【支持的風土の学級・学校づくり】

## 1 現状

安心して過ごせる学級・学校づくりのため、学習基盤である規範意識の習得に努めているが、週明けなかなかリズムに乗り切れない児童も多く、登校しぶり等も見られる。

自己肯定感を高めるために、学校での取り組みや児童の活躍を職員室前に掲示し、見える化を図っている。児童の活躍状況を開示することで、各コンクールや大会で入賞した児童が積極的に報告に来ている。



職員室前の掲示

## 2 今年度の取り組み

## (1) 温かく良好な人間関係づくり

## ①学級経営・学級活動の充実

○教師と児童の信頼関係や児童相互の温かい人間関係を築き、児童一人一人の特性が発揮できるように努める。

○学年で共通理解のもと、連携した取組を充実させる。

## ②i-check・スクリーニングの実施と活用

○i-checkを活用した学級づくりに取り組む。

○スクリーニングを実施することで、気になる児童の把握に努める。

## (2) いじめのない、安心・安全な学校づくり

## ①生徒指導・教育相談の充実

○ふれあいタイム（教育相談日）を年2回設定し、児童の問題の早期発見、迅速な対応に努める。

## ②いじめ防止と早期発見・早期対応

○毎月のいじめアンケートも実施し、未然防止・早期発見・早期解決に努める

○毎月校内指導委員会で各学年の気になる子の情報共有を行い、対応策について確認を行う。

## ③道徳教育の充実

○「特別な教科道徳」の時間では、「考え、議論する道徳」の実現に向け指導を充実（交換授業の実施）させ、豊かな心と規範意識を育む。

## ④人権教育の充実

○月1回「人権の日」の校内放送を通して指導の充実を図る。今年度は教師による「講話」を実施し、人権教育をより身近に感じ考えを深める取り組みを実践している。



人権放送後の児童感想の掲示

## 【成果と課題】

## (成果)

○スクリーニングを実施し、諸項目を数値化することで、児童が抱えている問題の早期発見、早期解決に向け学校・関係機関等が連携して取り組むことができた。

○教師による「人権テーマ」に沿ったエピソードトークを行うことで、より身近な出来事としてとらえ、自分事として考えることができるようになってきた。

## (課題)

●i-checkの効果的な活用を推進するために、校内研究などで理論研修を行う必要がある。

## 【子供主体の学び合い高め合う授業づくり】

### 1 現状

校内研究のテーマ「ユニバーサルデザインの視点を活かした指導の工夫」のもと、①焦点化、②視覚化、③共有化を重視し、すべての児童が「わかる」と実感できる授業実践に努めている。

また、電子黒板、タブレット等を活用し、学習課題や児童の考えを視覚化することで、「わかる授業作り」の展開にも努めている。

### 2 今年度の取り組み

#### (1) 学習指導の工夫・改善・充実

##### ①ユニバーサルデザインの視点を活かした「わかる」授業づくり

○UD化を意識した、「個別最適な学び」の授業展開に努め基礎的・基本的事項を確実に定着させる。

○「教えること」「考えさせること」を焦点化し、ねらいに即して授業展開を工夫する。

○一人一人の児童が「わかった」「できた」と実感できる授業づくりに努める。

##### ②他者と関わりながら課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業づくり

○「めざす授業像」の共有を図る。

○他者との交流により、思考を広げ深める言語活動の共有を図る。→「協働的な学び」の実践

○学習形態を工夫することで、対話活動の充実を図る。

##### ③授業スタンダードの徹底

○「授業スタンダード」を意識して授業実践に取り組む。

○学習環境を整え、授業に向かう姿勢を育てる。

#### (2) 教材研究の充実

##### ①学年協働による教材研究・交換授業の実施

○学年会や教科部会を十分に機能させ、教材研究の充実を図る。

○交換授業を積極的に実施することで、教材研究の時間削減とともに、教師自身の指導力の向上を図る。



道徳科における交換授業

#### (3) 校内研の充実

①研究主題に沿った研修を充実させ、授業改善・指導力向上を図る。

②「UD (ユニバーサルデザイン) の視点を意識した指導の工夫」を校内研のテーマとし、すべての児童にわかりやすい授業の展開をめざし、公開授業を実施する。

③キャリア教育の充実を図る為、年度当初に職員で共通理解を図ると共に、学校独自の「キラリシート (学期の目標)」を作成し、意欲付けを行った。



UDの視点を活かした研究授業

## 【成果と課題】

### (成果)

○校内研究において、「ユニバーサルデザイン (UD)」の視点を意識した授業を展開することで、見通しを持ち、主体的に学習に取り組む児童が増えてきた。

○学年協働 (交換授業) で道徳の授業を行うことにより、教材に対しての理解が深まり、「考え、議論する道徳」の効果的な実践につながった。

### (課題)

●学習の素地となる「学習規律」に関して、学校統一した取り組みを年間通して実践していく必要がある。

## 【地域と共にある学校づくり】

### 1 現状

昨年度は、コロナ禍ではあったが、地域コーディネーターの協力のもと、「職業インタビュー」「うちなぐち講話」「福祉講話」等の活動を実施することができた。

P T Aによる読み聞かせも定期的実施しており、参加人数が少ないときは、「M e e t」で読み聞かせの様子を配信している。

学校の教育活動を学校だよりやマチコミメール配信、HP等で積極的に情報発信することを心がけている。また、行事等でボランティア人員が必要な際には、保護者に協力を依頼して、必要人員を確保することができている。

さらに、P T Aや地域の方々の協力のもと、朝の交通安全指導も実施している。

## 2 今年度の取り組み

### (1) 家庭学習の習慣化(家庭との連携)

#### ①家庭学習リレーノートの実施

○授業と連動した家庭学習の課題を与え、既習事項の定着を図る。(復習・予習・発展問題等個別化を図る。)

○家庭学習の仕方を学年で指導し、家庭への協力を依頼する。

#### ②自学自習の推進

○自学自習を取り入れて自分で「計画・実践・振り返り」のサイクルで「自学自習力」の育成に努める。

### (2) 読書活動の習慣化

#### ①P T Aによる朝の読み聞かせ

○月2回月曜日の朝に、読み聞かせボランティア(P T A)による読み聞かせを行い、本に親しむ習慣を身につけさせる。

### (3) 体験活動の充実

#### ①地域教育資源の活用

○地域の方々との交流の場を増やし、相互理解を深める。

○地域コーディネーターを活用しての外部講師の依頼。

・3年生「うちなぐち」の講師

・1年生「昔遊び」の講師

・5年生「職業インタビュー」の講師

○「ありがとう集会」を行い、学校を支援してくださっている方々への感謝の気持ちを育てる。

○セカンドスクールで沖縄水産高等学校等の実業高校の施設見学や体験活動を通して将来の進路や職業選択について見通しを持たせる機会とする。

○西崎特別支援学校との交流を通して、共生社会について考えさせる機会とする。



西崎特支との交流会

## 【成果と課題】

### (成果)

○「家庭学習リレーノート」を実施したことで、少しずつではあるが、家庭学習の内容が充実したものになってきた。(良いノートを手本に、取り入れることができています。)

○地域コーディネーターを要に、外部講師を招いての諸活動を行うことで、児童の体験活動の充実を図ることができた。

### (課題)

●コロナ禍で停滞していたP T A活動の活性化が急務である。